小 学 校

平成２５年度

教育研究員研究報告書

音　楽

東京都教育委員会

目　　次

研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

Ⅰ　研究主題設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

Ⅱ　研究の視点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

Ⅲ　研究の仮設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

Ⅳ　研究の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
　１　基礎研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
　２　研究の進め方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

Ⅴ　研究の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
　１　研究テーマの理解・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
　(1)　音楽科における思考・判断・表現について・・・・・・・・・・・・・・・・３
　(2)　「思考・判断・表現」したことを音楽表現に生かすとは・・・・・・・・・・３
　２　「思考・判断・表現」したことを音楽表現に生かす学習過程・・・・・・・・・４
　３　「思いや意図をもたせる」ための手だて・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
　(1)　指導内容の明確化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
　(2)　意図的な発問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
　４　「学び合いを充実させる」ための工夫・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
　(1)　学び合いの目的の明確化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
　(2)　思いや意図などの可視化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
　５　実践事例
　(1)　「思いや意図をもたせる」ための手だて　指導内容の明確化　の実践例・１０
　　　第３学年　「Ａ表現・歌唱」イ
　　　題材名　　「歌詞の内容を感じ取って歌おう」
　(2)　「思いや意図をもたせる」ための手だて　意図的な発問　の実践例・・・１４
　　　第５学年　「Ａ表現・器楽」イ　ウ　エ
　　　題材名　　「いろいろなひびきを味わおう」
　(3)　「学び合いを充実させる」ための工夫の実践例・・・・・・・・・・・・・１９
　　　第２学年　「Ａ表現・音楽づくり」ア
　　　題材名　　「いろいろな音にしたしもう」

Ⅵ　研究の成果と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

研究構想図

教育研究員共通研究テーマ「学習指導要領に対応した授業の在り方」

音楽科における今日的な課題

音楽科・芸術科（音楽）については、その課題を踏まえ、音楽のよさや楽しさを感じるとともに、思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育成すること、音楽と生活との関わりに関心をもって、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度をはぐくむことなどを重視する。((ｉ)改善の基本方針 中央教育審議会答申 平成 20 年１月より)

教師の課題

①指導する内容の理解及び明確化
②児童の学習状況と興味・関心の把握
③児童の思いや意図を引き出す題材構成・教材の研究
④児童の思いや意図を引き出す発問
⑤学び合いの場の設定と学習形態の工夫
⑥児童の自己評価能力の育成

児童の実態

①音楽表現することが好きな児童が多い
②知覚・感受することが十分でない児童が多い
③思いや意図を言葉等で表現することが苦手な児童が多い
④自己肯定感がもてず、発表することへの抵抗感を感じる児童が多い
⑤互いの考えを聞き合い、認め合うことが苦手な児童が多い
⑥よりよい音楽表現のための試行錯誤をする経験が十分とはいえない
⑦思いや意図を音楽表現に生かす知識・技能が身に付いていない

研究主題
「思考・判断・表現」したことを音楽表現に生かす指導の工夫

研究の仮説

「『思考・判断・表現』したことを音楽表現に生かす学習過程」を工夫し、音楽的な感受を支えとした思いや意図をもたせ、学び合いを充実させることで、児童はよりよい音楽表現を実感できるであろう。

基礎研究

文献や講話をもとに、「思考・判断・表現」の捉え方、思いや意図を生かし学び合いを充実させて表現につなげる学習指導や学習評価の基本的な考え方について整理した。

実践研究

目指す児童像
自分の思いや意図をもち、学び合いを通してよりよい音楽表現を実感する児童

「思考・判断・表現」したことを音楽表現に生かす指導の工夫

知覚・感受の深まり

⑤振り返る
これまでの学習を振り返り、知覚・感受の深まりや思いや意図の実現に気付き、音楽のよさや楽しさを味わう。

④よりよい音楽表現を実感する
自分の思いや意図が音楽に生かされ、音楽表現がよくなったことを実感する

③思いや意図を音楽表現につなぐ

試行錯誤	技能の習得	判断
自分の思いや意図に近づくために音や音楽で試す	自分の思いや意図を実現させるために必要な技能に気付き、身に付ける	自分の思いや意図を実現させるためにこのような音楽表現でよいかを判断する

②思いや意図をもつ
音楽の特徴に即して「このように表したい」という自分の思いや意図をもつ

①知覚・感受する
楽曲の音楽的な特徴を聴き取り、そのよさや面白さ、美しさを感じ取る

思いや意図をもたせるための手だて
ア 指導内容の明確化
イ 意図的な発問

学び合いを充実させるための工夫
ア 学び合いの目的の明確化
イ 思いや意図などの可視化

思いや意図の高まり

※①～⑤は音楽表現を通して一体的に行われるものであり、活動の順序性を示すものではない。

研究主題

「思考・判断・表現」したことを音楽表現に生かす指導の工夫

Ⅰ　研究主題設定の理由

音楽科では、児童がこれまでに培った感性を働かせて、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさなどを感じ取ったことを基に、どのように表現していきたいか、思考・判断・表現を繰り返しながら音楽表現を深める学習が求められている。

そこでは、音楽を形づくっている要素を聴き取ることと、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取ること、すなわち知覚と感受の二つからなる音楽的な感受を基に学習を進めていく。そして、知覚・感受したことを基盤に児童はどのように音楽表現するかについての思いや意図をもち、それを言葉等で表し、思考・判断・表現を繰り返して、音楽表現がよりよくなっていくことを実感しながら学習を進めていく。

しかし、児童一人一人の思いや意図は、はじめから明確ではない。そこで、学び合いを充実させることにより、児童が相互に関わり合い自分の感じ方や考え方を伝え合う中で、友達の考えに共感したり、違いに気付いたりしながら自分の思いや意図を明確にし、音楽表現に生かすようになると考えた。

以上のことから、研究主題を「『思考・判断・表現』したことを音楽表現に生かす指導の工夫」と設定し、児童がよりよい音楽表現を実感できる授業づくりを目指し、本研究を進めた。

Ⅱ　研究の視点

「『思考・判断・表現』したことを音楽表現に生かす学習過程」を工夫し、題材の展開に応じて実践する。また、各学習過程における効果的な指導方法を、次の２点から手だてを講じ、研究主題に迫る。

１　思いや意図をもたせるための手だて

２　学び合いを充実させるための工夫

Ⅲ　研究の仮説

「『思考・判断・表現』したことを音楽表現に生かす学習過程」を工夫し、音楽的な感受を支えとした思いや意図をもたせ、学び合いを充実させることで、児童はよりよい音楽表現を実感できるであろう。

Ⅳ　研究の方法

１　基礎研究

次の文献や講話をもとに、「思考・判断・表現」の捉え方、思いや意図を生かし学び合いを充実させて音楽表現につなげる学習指導や学習評価の基本的な考え方について整理した。

(1)　文献

・「小学校学習指導要領解説音楽編」（文部科学省・平成 20 年 8 月）

・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校　音楽】」

（文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター・平成 23 年 11 月）

・「言語活動の充実に関する指導事例集【小学校版】」（文部科学省・平成 23 年 10 月）

・「音楽科における『思考力・判断力・表現力』と言語活動の充実」

（文部科学省初等中等教育局教育課程課　教科調査官　津田正之）

・平成 22・23・24 年度教育研究員報告書　小学校「音楽」東京都教育委員会

・「中等教育資料」平成 25 年度 4 月号

・「初等教育資料『学び合う授業づくり･その本質と方法』」（平成 25 年 5 月号文教大学教授 嶋野道広）

・特定の課題に関する調査（音楽）（文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター・平成 22 年 7 月）

(2)　講話

音楽科における「思考力・判断力・表現力」とは（東京都公立小学校長）

２　研究の進め方

７月までに２回の研究授業を実施し、自校や各地区の指導上の課題を整理し、研究主題と仮説を設定した。その後、「『思考・判断・表現』したことを音楽表現に生かす学習過程」を考案し、思いや意図をもたせるための手だてを講じ、学び合いを充実させるための工夫を重ねながら、表現領域において３回の検証授業から仮説について検証を進めた。

Ⅴ　研究の内容

１　研究テーマの理解

(1) 音楽科における思考・判断・表現について

21 世紀を生きる子供たちの教育の充実を図るため、学校教育法の改正が行われ、基礎的・基本的な知識・技能の習得、それらを活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等の育成及び主体的に学習に取り組む態度を重視し､調和的に育むことが示された。それらを受け、学習指導要領では、言語活動の充実を図ることが示されている。

また、近年の学力に関する各種の調査結果により、児童の思考力・判断力・表現力等の育成に依然課題があることが明らかになった。

このような背景から、思考力・判断力・表現力等の育成は、全ての教科等において重視すべき課題であり、各教科の特質に即して育成することが求められている。音楽科においては､「音や音楽を知覚し、その要素の働きが生みだすよさや面白さ、美しさを感受し、思考・判断・表現する力をより一層育成すること」が重要とされている。

音楽科における思考力・判断力・表現力を育成するために、音楽的な感受を基に､「どのように表すか」についての思いや意図を児童がもつことができるための学習や、思いや意図を音楽表現に生かすための学習を十分に行うことが課題である。

(2)「思考・判断・表現」したことを音楽表現に生かすとは

「『思考・判断・表現』したことを音楽表現に生かす」とは、音楽表現活動を通して「音楽的な感受を基に自分の音楽表現への思いや意図をもち、それを言葉や音などで表現し、音や音楽で試行錯誤を繰り返し、音楽表現がよりよくなっていくことを実感すること」と捉える。

思いや意図を音楽表現に生かすためには、自分の思いや意図の実現のために必要な技能を児童自らが気付き、習得しようとしていくことが大切である。

そのためには、自分の思いや意図を友達と伝え合ったり、互いの考えや集団の考えを深めたりしながら、児童自らが必要と感じる技能を身に付け、音楽表現がよりよくなっていくことを実感できる学習過程が大切である。

２　「思考・判断・表現」したことを音楽表現に生かす学習過程

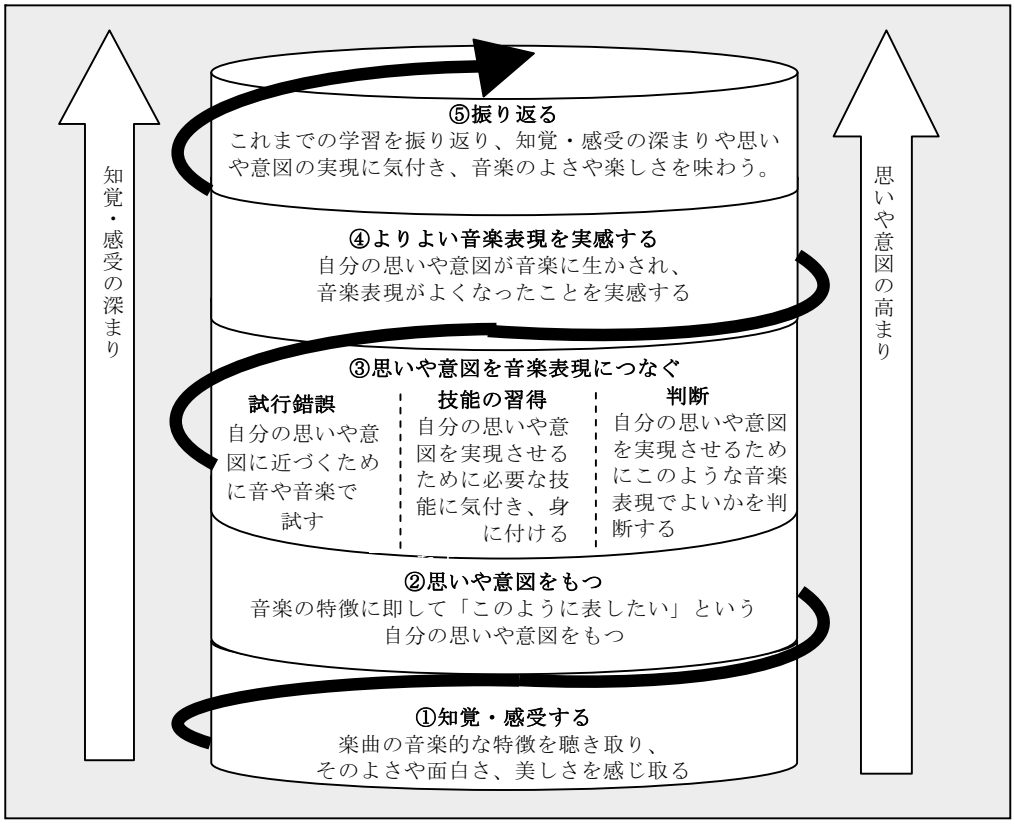
児童の「思考・判断・表現」したことを音楽表現に生かすためには、よりよい音楽表現を児童が実感する体験の積み重ねが大切である。

よりよい音楽表現とは、〔共通事項〕アの学習を支えとしながら、どのように表すかについて思いや意図をもち、表現を工夫し、そのために必要な技能を身に付け、音楽表現を高めて行く過程を通して、児童自身がよりよくなったと実感できる音楽表現のことである。

そこで、よりよい音楽表現を児童が実感できるよう、図１のような学習過程に５つの場を設けた。これらの学習過程に定まった一定方向の展開はなく、児童の実態や題材構成に応じて、繰り返したり、元に戻ったりしながら展開していく。

この学習過程により、教師も児童も今がどの場の学習なのかを意識して学習を進めていくことができるようになる。

図１　「思考・判断・表現」したことを音楽表現に生かす学習過程



①　知覚・感受する

楽曲との出会いの場。ここでは、音楽を形づくっている要素に全ての児童が気付き、音楽のよさや面白さを感じ取ることができるようにする。児童が知覚・感受した様々な要素の中から、その題材を貫いて扱う要素を明確にする。そのために、あらかじめ児童に何を学ばせたいのか指導内容を明確にする。

②　思いや意図をもつ

児童が知覚・感受したことを基に、どのように音楽で表現するかを考え、「このように表したい。」という思いや意図をもつ場。ここでは、どの児童にも音楽的な特徴に即した思いや意図をもたせる。思いや意図がもてない児童がいる場合は、状況を把握した上で①の場に戻り、再び音楽的な特徴を知覚・感受させ、思いや意図をもたせる。

③　思いや意図を音楽表現につなぐ

児童が「このように表したい。」という思いや意図を音楽表現につなげる場。児童は、たえず音で試し、「試行錯誤」「技能の習得」「判断」を繰り返しながら、自分の表したい表現を目指して音楽で表現する。

試行錯誤

自分の思いや意図を実現するために、どのように音楽で表現したらよいかを考えながら試行錯誤する場。ここでは「音で試す」ことが重要である。自分の出した音が、自分が表現したい音楽に近づいているかを注意深く聴き、児童自身が確かめながら何度も試す。その際、「①知覚・感受する」場で着目させた音楽を形づくっている要素と思いや意図とを関連付けながら自分の音楽表現を考え試すように働き掛ける。

技能の習得

自分の思いや意図を音楽で表現するために必要な技能に気付き、習得していく場。教師が教え込み、訓練的な反復練習を行うのではなく、楽曲に対する音楽的な感受と関連させながら試行錯誤する中で、児童自らが思いや意図を音楽表現につなげるための技能の必要性に気付き、習得していくようにする。

判断

自分の思いや意図を実現するために、このような音楽表現でよいか判断し、次の活動を自ら選択する場。

④　よりよい音楽表現を実感する

①～③の学習過程を経て、自分の思いや意図が音楽で表現できた喜びを実感する場。題材の始めと終わりの音楽表現を聴き比べ、「よりよくなった」ことに気付かせる。

⑤　振り返る

①～④の学習過程を通して、自分の知覚・感受の深まりや思いや意図の実現に気付き、今までの学び方を振り返る場。題材の終わりに振り返りをすることで、学習内容の確実な定着が図られる。

３　「思いや意図をもたせる」ための手だて

「思いや意図をもたせる」とは、知覚・感受したことを基にして、最終的に「こう表現したい」という音楽表現への見通しをもたせることである。思いや意図をもつことは、音楽的な特徴を聴き取り感じ取ることと表裏一体であるため、授業においては、音楽的な感受が思いや意図につながるように〔共通事項〕アを知覚・感受する活動を通して丁寧に指導する。

(1)　指導内容の明確化

音楽的な感受に基づいた思いや意図をもち、音楽表現に生かしていくためには、題材を通して指導内容を明確にする。そうすることで、教師は題材を通して知覚・感受させる音楽的な特徴を聴き取るのに適した教材を選択したり、音楽的な感受と関連付けながら思いや意図を明確にするための的確な指導や助言をしたりすることができる。また、児童は思いや意図を音楽表現に生かすための必要な技能に気付き、習得する。そして、題材のはじめには大まかで曖昧であった思いを次第に鮮明にし、自分の求める音楽表現をはっきりさせていくことができるようになる。

【実践例】　第３学年　Ａ表現　(1)歌唱　イ

題材名　　「歌詞の内容を感じ取って歌おう」

題材の目標　　歌詞の内容にふさわしい表現を工夫し、強弱や音色に気を付けて、思いや意図をもって歌う。

教材曲　　「森の子もり歌」（蓬莱泰三　作詞／菊地雅春　作曲／佐伯孝一　編曲）

第１時では、「森の子もり歌」を聴き、感想を記入する学習カードに次の質問項目を立てた。（表１参照）

表１　児童の記述例　（実践事例１　第３学年「歌詞の内容を感じ取って歌おう」第１時より）

児童の記述

質問項目	曲の感じ	気が付いたこと
Ｃ１	きれいな曲でした。	ピアノばんそうがよかった。
Ｃ２	リズムに乗った感じ。	リズムが良く楽しい気分になった。
Ｃ３	やさしいかんじ。	鳥が歌っているみたいだった。
Ｃ４	なめらか	ゆっくりでねむくなるようなかんじでした。

しかし、このような質問項目では、音楽を形づくっている要素についての知覚と感受をどのように記入するのかが分かりにくい。題材を通して指導する〔共通事項〕アの内容を明確にすることができないまま学習が進められたため、学習過程の「②思いや意図をもつ」場で、音楽的な特徴に即した思いや意図をもつことができない児童が多かった。

表１の記述内容の分析
Ｃ１：「きれいな」という漠然とした感受になっており、何がきれいなのか明確でない。
Ｃ２：リズムについての知覚・感受になっている。
Ｃ３：「鳥が歌っているみたい」という感想が、歌詞の内容と音楽的な要素のどちらが根拠になっているかがわからない。
Ｃ４：聴き取った〔共通事項〕が曖昧である。

そこで、題材のねらいに迫るため、指導内容を音色、強弱、フレーズに絞り、音色と強弱を知覚・感受できるよう学習カードの質問項目を改善し、再度実践を行った。（表２）

表２　知覚・感受するための学習カード（改善策）

質問項目	どのような感じがしましたか	それは音楽のどこからそう感じたのですか
Ｃ５	お母さん鳥が子供にやさしく歌っている感じ。	きれいでやさしい声で歌っているから。

今後の実践では、このように指導内容を明確にする。

(2)　意図的な発問

思いや意図をもたせたり、それらを鮮明にしたりするためには、児童の関心・意欲が大切である。教師は学習の展開を捉え、何の場面かよく見極めて発問する。

「①知覚・感受する」場で発問をする際に「音楽のどんな特徴からそう思ったのか。」「なぜ、そのように感じるのか。」など問い掛けをし、児童が楽曲の音楽を形づくっている要素に気付いたり、考えたり、判断したりすることを促していく。児童は理由を考えることで深く思考し、自分の言葉で表現しようとする。（表３参照）

表３　児童が考えたり、判断したりすることを促していく発問と児童の反応（授業記録より）

T	みんなが気がついた曲の感じをもとに、実際に歌いながら試してみて、みんなの表したい感じはどうなりましたか。表したい感じが変わった人はいますか。
Ｃ６ Ｃ７ Ｃ８ Ｃ９	「きれいな感じ」と思っていたけれど、「なめらかな感じ」で歌った方が合っていた。 「たのしい感じ」のところを「はずむ感じ」で歌うとぴったりだった。 「ピラロルラ」は弾ませて、「夜更けの森に聞こえる」はなめらかに歌うんだよ。 「ひなたちをつばさにだいて　ねんねしずかにおやすみよ」はなめらかなんだけどやさしい声で静かに歌うんだよ。
T	（Ｃ４の発言を受けて）どうしてそう思うのですか。
C10 C11 C12	だって、子もり歌だから 夜だから静かにしないと、みんな起きちゃう。 ２番は夜明けだよ。（など、歌詞に注目して考える児童が増えてきた。）
T	では、次の時間にみんなが言っているように歌詞に注目してどのように歌うと曲に合う歌になるか考えていきましょう。

（実践事例１　第３学年「歌詞の内容を感じ取って歌おう」第２時より）

さらに、教師が音楽を形づくっている要素と関連付けながら発問をすることで、児童自ら音楽表現に必要な技能に気付き、基礎的な技能を習得しようとするようになる。

以上のことに関連した発問と児童の発言（表４）を示す。

表４　児童自らが音楽表現に必要な技能に気付く発問と児童の反応（授業記録より）

T	歌詞の様子を思い浮かべて、どんな感じに歌いたいか考えましょう。
C13 C14 C15 C16 C17 C18 C19	「ピラロルラ」は弾ませて、「夜更けの森に聞こえる」はなめらかに歌いたい。（歌いながら説明する。） でも母さん鳥が子もり歌を歌うんだから、元気よく弾ませる感じではない。 １番は夜だから静かに優しい声で歌いたい。小さい声の方がいいよ。 ２番は朝の歌になっていくので、ちょっと大きく歌いたい。 それに２番のピラロルラはちいさい鳥だから、元気よく歌いたい。 でもまだ朝じゃない。夜明けだから。 「森の仲間におはようと」のところは、「おはよう」と明るく響かせたい。
T	（C19 の発言を受けて）響かせるためにはどうすればいいですか。
C20 C21 C22	口を開ける。 上に声を当てる。（歌いながら試し、響く声の出し方を探し、どうしたらよいか考えている。その後のピラロルラの強さや歌い方について児童のつぶやきが出始める。） 朝になったよ。森のみんなに子供の鳥が歌っているから、明るい声で歌いたい

（実践事例１　第３学年「歌詞の内容を感じ取って歌おう」第３時より）

このようにして、児童は身に付けた音楽表現の技能を生かしたり、新たに獲得したりしながら、自分の思いや意図が実現していくことを確かめ、音楽がよりよくなっていくことを実感するようになる。

4　「学び合いを充実させる」ための工夫

学び合いとは、単なる発表や意見交換の場ではなく、自己との対話を重ねつつ、他者と相互に関わりながら、自分の考えや集団の考えを発展させていくことである。

児童は、知覚・感受を基にして楽曲に対する自分の思いや意図をもち、他者と交流し合う中で友達の考えに共感したり、自分の考えのよさや友達の考えとの違いに気付いたりして知覚・感受を深め、思いや意図を発展させ、音楽表現を豊かにする。

学び合いは、①「知覚・感受する」場や、音や音楽で試す試行錯誤の場など、①～⑤のいずれの場にも存在する。

「自分はどのような考えをもったのか。」「友達はどのようなことを考えているのか。」「それについて自分はどのように考えるのか。」ということが見えるようにすることで、「友達の意見を聴いて自分の考えがこんなふうに変わった。」という、思いや意図の変容やの深まりに気付くことができる。そこで次の２点から、学び合いの充実を図った。

(1)　学び合いの目的の明確化

学び合いが意見交換だけの表層的なものにならないよう、教師は学び合いの目的を明確にし、場を設定する。学び合いの場を設定する際には、それまでの学習で児童の知覚・感受を含めた学習状況を十分に把握しておく。そして「児童に何を学ばせるための学び合いか。」という学び合いの目的を明確にし、その「学びの中身」と、「題材の目標」とがずれないよう、一貫した題材の指導計画を作る。

(2)　思いや意図などの可視化

思いや意図を音楽表現に生かすためには、まず自分の思いや意図を明確にする必要がある。漠然とした感受、思いや意図を言語、絵、図などで可視化することにより、児童は自分の思いや意図などに気付き、その先にある音楽表現への見通しをもつことができる。その上で友達の思いや意図などを言葉、音や音楽等で聴く中で、思いや意図が鮮明になり、よりよい音楽表現につなぐことができる。

学習カードの工夫、付箋やネームカードの活用、体を動かす活動等、様々な方法で思いや意図を伝え合えるようにした。

【実践例】　第２学年　Ａ表現　(3) 音楽づくり　ア

題材名　　「いろいろな音に親しもう」

題材の目標　いろいろな音や音色の違いを感じ取ったり、好きな音を探したりして、音に対する興味・関心を育てる。

教材曲　　「虫のこえ」（文部省唱歌）

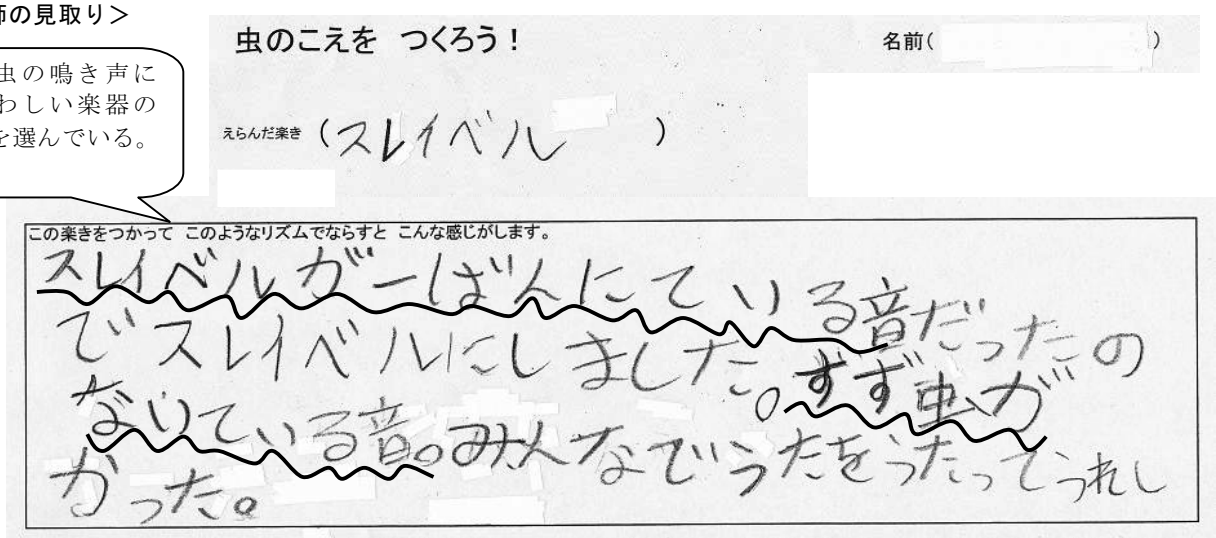
様々な打楽器の音色を知覚・感受し、虫の鳴き声に合う楽器で、虫の声をつくった。

① 思いや意図などの可視化

学習カードに感受したことを記述できる設問を作った。児童は、「なぜその楽器を選んだのか。」という理由などを学習カードに記入することで、自分の思いや意図を明確にすることができた。

＜教師の見取り＞

すず虫の鳴き声にふさわしい楽器の音色を選んでいる。


虫のこえを つくろう！

名前（　　）

えらんだ楽き（スレイベル　　）

この楽きをつかって このようなリズムでならすと こんな感じがします。

スレイベルがーばんにている音だったのでスレイベルにしました。すず虫がなっている音のみんなでうたをうたってうれしかった。

② 学び合う場の設定

学び合いの目的「思いや意図などを伝え合う」場面を設定した。一人一人が思いを書いた学習カードを持ち、学び合いの場に臨んだ。

＜児童の発言＞

ぼくはトライアングルを選んだけれど、スレイベルの音も、すず虫の鳴き声と似ていていいね。

＜児童の発言＞

ぼくが選んだスレイベルと同じだ。

思いや意図を伝え合う場面では、自分の学習カードを見ながら発言したり、友達の学習カードの記述を見ながら演奏を聴いたりすることで、友達の思いや意図を知ることができた。この活動を通して、トライアングルを選んだ児童が、スレイベルの音色もすず虫の鳴き声に似ていることに気付き、音色に対する自らの思いや意図を明確にすることができた。

5　実践事例

(1)　「思いや意図をもたせる」ための手だて　指導内容の明確化　の実践例　10月(第3学年)

学習指導案（掲載省略）を実践した結果、指導内容の明確化に課題があることが明らかになり、以下の修正指導案を作成した。（　　追加の修正部分）

① 題材名　　「歌詞の内容を感じ取って歌おう」（４時間扱い）

② 題材の目標　歌詞の内容にふさわしい表現を工夫し、強弱や音色に気を付けて、思いや意図をもって歌う。

③　学習指導要領との関連（**この項目を追加し、指導内容を一層具体化した。**）

【Ａ表現(１)歌唱】　イ　歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌うこと。

〔共通事項〕ア (ｱ)　音色　強弱　フレーズ

			〔共通事項〕の具体的な内容	学習活動
ア	(ｱ)	音色	・発声の違いによる声の表情の違い	・歌詞の内容にふさわしい音色で歌う。
		強弱	・音の連なり方や歌詞の内容を手掛かりとした強さや弱さ、その変化	・歌詞の内容やフレーズのまとまりを生かした強弱を考える。
		フレーズ	・音の連なり方や曲の山を手掛かりとして音楽のまとまりを変化させる	・音の連なりをもとに「はずませる」「なめらかに」等、自分の表したい感じを変化させる。

④　題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①「森の子もり歌」の歌詞の内容、曲想に興味・関心をもって進んで歌おうとしている。 ②「森の子もり歌」歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。 【関―①②歌唱】	①「森の子もり歌」の音色、強弱、フレーズの特徴を聴き取り、それらの働きが生みだすよさや面白さを感じ取っている。 ②「森の子もり歌」の歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。 【創―①②歌唱】	①音色、強弱、フレーズに気を付けて、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現で歌っている。 【技―①歌唱】

⑤　題材について

ア　題材設定の理由

中学年になると、興味や関心に広がりが見られるようになり、考え方も深まりが出てくる。そのような中で、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫する題材を設定し、表現をより豊かなものにしていこうとする意欲の高まりを大切にしながら、自分にとって価値のある新しい表現を実感できるようにさせたい。また、曲想や音楽を形づくっている要素を感じ取りながら､思いや意図をもって歌うようにし､その楽しさを実感させたいと考え、本題材を設定した。

イ　教材について

「森の子もり歌」　（蓬莱泰三　作詞／菊地雅春　作曲／佐伯孝一　編曲）

Ａ(aa`)Ｂ(ｂａ`)の二部形式。ａの部分では旋律が弱起になっており、８分休符が軽やかさを感じさせるのに対し、ｂの部分では順次進行によるなめらかな音型になっている。

「ピラロ・ルラ」という言葉を、誰に向かってどのようなことを言っているのか、１番や２番の歌詞の表す時間はいつなのかということを手掛かりに、歌詞の意味を考えやすい。夜中や夜明け、朝の時を表す歌詞の内容から強弱について工夫したり、優しくお母さん鳥が子供の鳥に語りかける様子から、音色に気を付けて歌ったりすることができる。

⑥　本題材における「『思考・判断・表現』したことを音楽表現に生かす学習過程」

時	◎ねらい	「思考・判断・表現」したことを 音楽表現に生かす学習過程	評価規準（評価方法）
1	◎「森の子もり歌」音色、強弱、フレーズの特徴に気付き楽曲に対する興味・関心をもつ。	**①知覚・感受する** 「森の子もり歌」の音色、強弱、フレーズの特徴を聴き取り、そのよさや面白さを感じ取る。	・「森の子もり歌」の歌詞の内容、曲想に興味・関心をもって進んで歌おうとしている。【関―①歌唱】（行動観察・演奏聴取） ・「森の子もり歌」の音色、強弱、フレーズの特徴を聴き取り、それらの働きが生みだすよさや面白さを感じ取っている。【創―①歌唱】（行動観察・学習カード）
2	◎「森の子もり歌」の音色、強弱、フレーズの特徴を聴き取り、曲想にふさわしい表現を考え、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもつ。	**②思いや意図をもつ** 曲想にふさわしい表現を考え、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもつ。	・「森の子もり歌」の歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。【創―②歌唱】（行動観察・学習カード・演奏聴取）
3	◎歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方を工夫する。	**③思いや意図を音楽表現につなぐ** ・歌詞の内容を考え、どのように歌うと曲想に合うかを、歌いながら考える。（試行錯誤） ・歌詞の内容や曲想に合うような発声の仕方に気付く。（技能の習得） ・歌詞の内容や曲想に合うように、この歌声でよいかどうかを判断する。（判断）	・「森の子もり歌」歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。【関―②歌唱】（行動観察・演奏聴取）
4	◎音色、強弱、フレーズに気を付けて、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現で歌う。	**③思いや意図を音楽表現につなぐ** 歌詞の内容や曲想に合う歌声で表現できるようにする。（技能の習得） **④よりよい音楽表現を実感する** 歌詞の内容や曲想にふさわしい歌声で表現し、自分の思いや意図を音楽で表現できたことを実感する。 **⑤振り返る** 歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫する学習を振り返り、音色、強弱、フレーズの特徴を生かして歌うよさや楽しさを感じる。	・音色、強弱、フレーズに気を付けて、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現で歌っている。【技―①歌唱】（演奏聴取）

⑦　「思いや意図をもたせる」ための手だて　　指導内容の明確化

教材を聴き知覚・感受する際に、教師が事前に〔共通事項〕アにおける具体的な指導内容（本題材では、音色・強弱・フレーズ）を明確にし、「音楽のどんな特徴からそう思ったのか。」と問い掛けることで、児童は楽曲の音楽を形づくっている要素に気付く。

このように教師が児童に気付かせ感じ取らせ、題材を通して学習する要素を明確にすることで、音楽的な感受を基に歌い方を工夫し、いろいろと試しながら、どのように表現するかについて考えたり判断したりすることができるようになる。そして、はじめは漠然としていた自分の思いや意図をはっきりさせながら、音楽表現に生かすことができるようになる。

⑧　題材の指導計画と評価計画（全４時間扱い）（点線内のＴは実践を基にした改善の発問案）

時	「思考・判断・表現」 したことを音楽表現に 生かす学習過程	◎ねらい　○学習内容　・学習活動	指導内容の 明確化	評価規準（評価方法）		
				音楽への関心・ 意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の 技能
1	**①知覚・感受する** 「森の子もり歌」の音色、強弱、フレーズの特徴を聴き取り、そのよさや面白さを感じ取る。	◎「森の子もり歌」の音色、強弱、フレーズの特徴に気付き楽曲に対する興味・関心をもつ。 ○曲想を感じ取る。 ・「森の子もり歌」を聴き、感じ取ったことを学習カードに記入し、発表する。 Ｔ：この曲を聴いて気付いたことや感じたことを発表してください。 Ｔ：どうしてそう思ったのですか。 ・歌詞の表す様子を思い浮かべながら歌う。 ・歌声を録音する。	・音色などの音楽的な特徴に気付かせる。	「森の子もり歌」の歌詞の内容、曲想に興味・関心をもって進んで歌おうとしている。【関―①歌唱】（行動観察・演奏聴取）	「森の子もり歌」の音色、強弱、フレーズの特徴を聴き取り、それらの働きが生みだすよさや面白さを感じ取っている。【創―①歌唱】（行動観察・学習カード）	
2	**②思いや意図をもつ** 曲想にふさわしい表現を考え、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもつ。	◎「森の子もり歌」の音色、強弱、フレーズの特徴を聴き取り、曲想にふさわしい表現を考え、どのように歌うかについて自分の思いや意図をもつ。 ○曲全体をどのように感じ取ったかを確認する。 ・前時の学習カードを見て、自分の思った曲の感じ（「楽しい感じ」「はずむ感じ」など）のところにネームカードを貼り、自分の思いや意図を確認する。 ・歌で確認しながら表現を工夫し、どのように歌いたいかについての思いや意図をもつ。 Ｔ：みんなが気が付いた曲の感じを基に、実際に歌いながら試してみて、みんなの表したい感じはどうなりましたか。表したい感じが変わった人はいますか。 Ｔ：（児童の発言を受けて）どうしてそう思ったのですか。 Ｔ：では、次の時間にみんなが言っているように歌詞に注目してどのように歌うと曲に合う歌になるか考えていきましょう。	・歌詞の内容に注目させる。		「森の子もり歌」の歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方を工夫し、どのように歌うかについて自分の考えや願い、意図をもっている。【創―②歌唱】（行動観察・学習カード・演奏聴取）	

3	**③思いや意図と音楽表現をつなぐ** ・歌詞の内容を考え、どのように歌うと曲想に合うかを歌いながら考える。（試行錯誤） ・歌詞の内容や曲想に合うような発声の仕方に気付く。（技能の習得） ・歌詞の内容や曲想に合うように、この歌声でよいかどうかを判断する。（判断）	◎歌詞の内容や曲想にふさわしい歌い方を工夫する。 ・歌詞の内容を考え、どのように歌うと曲想に合うかを歌いながら考える。 Ｔ：歌詞の様子を思い浮かべて、どんな感じに歌いたいか考えましょう。 Ｔ：響かせるためにはどうすればいいですか。 ・歌詞の内容や曲想に合うように、この歌声でよいかどうかを判断する。	・強弱の工夫について考えさせる	「森の子もり歌」歌詞の内容、曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。【関―②歌唱】（行動観察・演奏聴取）		
4	**③思いや意図と音楽表現をつなぐ** 歌詞の内容や曲想に合う歌声で表現できるようにする。（技能の習得） **④よりよい音楽表現を実感する** 歌詞の内容や曲想にふさわしい歌声で表現し、自分の思いや意図を音楽で表現できたことを実感する。 **⑤振り返る** 歌詞の内容や曲想にふさわしい表現を工夫する学習を振り返り、音色、強弱、フレーズの特徴を生かして歌うよさや楽しさを感じる。	◎音色、強弱、フレーズに気を付けて、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現で歌う。 ○互いの歌声を聴きながら、思いや意図をもって、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現で歌う。 ・「ピラロルラ」と「夜ふけの森にきこえる」のフレーズの違いを感じながら歌う。 ・曲の山と強弱とを関連させながら表現を工夫する。 ○これまでに学習した表現を生かして、歌詞の表す様子や曲想にふさわしい表現で歌う。 ・歌声を録音をする。 ・第１時の歌声と聴き比べ、歌詞の内容や曲想にふさわしい歌声になっていることを実感する。 ・本時の振り返りをする。	・フレーズの特徴に気付かせる			音色、強弱、フレーズに気を付けて、歌詞の内容や曲想にふさわしい表現で歌っている。【技―①歌唱】（演奏聴取）

児童の変容と今後の課題

・指導内容を明確化することにより、要素やその働かせ方に児童が自ら気付くことができた。また、「このように音楽で表したい」という思いや意図を言葉等や歌声で伝え合う中で、友達の考えを聞いて、曲想によりふさわしい歌い方に気付いたり、自分の考えを深めたりしながら、主体的に音楽表現を工夫する姿を見ることができた。
・一人一人の知覚・感受したことを的確に把握し、音楽表現に結び付けていくことができるように気付かせることが今後の課題である。

(2)「思いや意図をもたせる」ための手だて　意図的な発問　の実践例　９月（第５学年）

学習指導案（掲載省略）を実践した結果、思考を促す発問に課題があることが明らかになった。思考を促す発問をする際にも、指導内容を明確にすることが重要だと分かり、以下の修正指導案を作成した。（　　追加の修正部分）

①　題材名　　「いろいろなひびきを味わおう」（５時間扱い）

②　題材の目標　　声部の働きや楽器の音色の特徴を知り、組み合わせを工夫することで響きの違いが生まれることに気付き､そのよさや面白さを味わうことができるようにする。

③　学習指導要領との関連　**（この項目を追加し、指導内容を一層明確にした。）**

【Ａ表現(2)器楽】　ウ　楽器の特徴を生かして旋律楽器及び打楽器を演奏すること。

エ　各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。

〔共通事項〕ア（ｱ）　音色　音の重なり

			〔共通事項〕の具体的な内容	学習活動
ア	(ｱ)	音色	・楽器から出すことのできる様々な音の表情の違い	・各声部の役割に合った楽器を選ぶ。
		音の重なり	・各声部（主旋律、副次的な旋律、低音）の働きと、その重なり方の違いが生みだすよさや面白さ	・各声部の役割や音色の特徴を生かした声部の組み合わせ方の工夫をグループで考え、演奏する。

④　題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①演奏する楽器の特徴を生かして、旋律楽器や打楽器を演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。 ②各声部の楽器の音や全体の響きを聴きながら、自分の音を友達の音と調和させて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。【関―①②器楽】	①互いの楽器の音、主な旋律や副次的な旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生みだすよさや面白さなどを感じ取る。 ②各声部の旋律の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願いや意図をもっている。【創―①②器楽】	①演奏する楽器の特徴を生かして、旋律楽器や打楽器を演奏している。 ②声部の役割を理解し、主な旋律や副次的な旋律、全体の響きを聴きながら自分の音を友達の音と調和させて合奏をしている。【技―①②器楽】

⑤　題材について

ア　題材設定の理由

本題材では、声部の役割にふさわしい楽器を選んだり組み合わせたりして、グループアンサンブルをする。これまでの学習経験を踏まえ、各声部の役割を理解し、楽器の音色の特徴や全体の響きが変化していくよさや面白さを感じ取らせたいと思い本題材を設定した。

イ　教材について

「リボンのおどり（ラ　バンバ)」(メキシコ民謡／原 由多加 編曲)

原曲はメキシコ民謡の「ラ　バンバ」で、ギターやアルパなどで演奏される。楽器の選択や声部の組み合わせ、繰り返しの回数などを自由に構成できるように編曲されている。

楽器：リコーダー　鍵盤ハーモニカ　マリンバ　シロフォン　ビブラフォン　グロッケン　キーボード　バスキーボード　スレイベル　ウッドブロック　鈴　大太鼓　小太鼓　カスタネット　ボンゴ　コンガ　カウベル　タンブリン　ギロ　シェイカー ドラムセット トライアングル　シンバル
以上の中から、児童が選択する。

⑥　本題材における「『思考・判断・表現』したことを音楽表現に生かす学習過程」

時	◎ねらい	「思考・判断・表現」したことを 音楽表現に生かす学習過程	評価規準（評価方法）
1	◎「リボンのおどり」を聴き、楽器の音色や音の重なりに興味・関心をもつ。	**①知覚・感受する** ・「リボンのおどり」の範奏を聴き、楽器の音色や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取る。	・互いの楽器の音、主な旋律や副次的な旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生みだすよさや面白さなどを感じ取る。【創―①器楽】（行動観察・発言・学習カード）
2	◎各声部の旋律の特徴を考え、声部の役割に合った楽器を選択する。	**①知覚・感受する** ・各声部の旋律の特徴を聴き取り、それら働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取る。 **②思いや意図をもつ** ・各声部の役割や旋律の特徴を生かし、どの楽器で演奏するかについて、思いや意図をもっている。 **③思いや意図を音楽表現につなぐ** ・自分の担当する声部を様々な楽器で演奏し、声部の役割に合っているかを試す。（試行錯誤） ・自分の担当する声部をどの楽器で演奏するか決める。（判断）	・演奏する楽器の特徴を生かして、旋律楽器や打楽器を演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。【関―①器楽】（行動観察・発言・学習カード） ・各声部の旋律の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願いや意図をもっている。【創―②器楽】（行動観察・発言・学習カード）
3 ・ 4	◎各声部の役割や音色の特徴を生かした声部の組み合わせ方をグループで考え、演奏する。	**①知覚・感受する** ・「リボンのおどり」の楽器の組み合わせの違う範奏を聴き比べ、重なりによる響きの違いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取る。 **③思いや意図を音楽表現につなぐ** ・各グループで声部の組み合わせ方や声部の特徴にふさわしい楽器の音色について考え、演奏して試す。（試行錯誤） ・声部の役割に合った楽器の組み合わせ方を決める。（判断） ・担当する声部の役割や楽器の特徴を生かすため強弱などに気を付けて演奏する。（技能の習得）	・各声部の楽器の音や全体の響きを聴きながら、自分の音を友達の音と調和させて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。【関―②器楽】（発言・演奏聴取、振り返りカード） ・演奏する楽器の特徴を生かして、旋律楽器や打楽器を演奏している。【技―①器楽】（演奏聴取）
5	◎「リボンのおどり」の音楽の特徴を感じ取りながら、グループごとに、楽器の組み合わせや音を合わせて演奏する表現を工夫し、合奏をする。	**③思いや意図を音楽表現につなぐ** ・声部の役割を理解し、楽曲の特徴を感じ取りながら、自分の音を友達の音に調和させて演奏する。（技能の習得） **④よりよい音楽表現を実感する** 自分の思いや意図が生かされ、音楽で表現できたことを実感する。 **⑤振り返る** これまでの学習を振り返り、楽器や声部の組み合わせ方の違いによる響きのよさや面白さを味わう。	・声部の役割を理解し、主な旋律や副次的な旋律、全体の響きを聴きながら、自分の音を友達の音と調和させて合奏をしている。【技―②器楽】（演奏聴取）

⑦　思いや意図をもたせるための手だて　意図的な発問**（この項目を追加し、児童の思考を一層促すようにした。）**

児童の考えを引き出すために、教師があらかじめ児童に何を考えさせるのかを明確にした。また、すぐに次の発問を投げかけるのではなく、十分に考える時間を与えた。

【児童の思考を促すために活用したい発問例】

・要素（音色、音の重なり）を知覚・感受させる発問…「何の楽器が聴こえてきますか。」
・思いや意図を引き出す発問…「２回目はどうしてこの楽器の組み合わせにしたのですか。」
・自分と友達の考えを比べながら、交流させるための発問…「お互いの考えの同じところや違うところはどこですか。」
・音楽表現の工夫と思いや意図を結び付ける発問…「なぜばちの持ち方を変えたのですか。」
・思いや意図の変容に気付かせる発問…「さっきと音楽の感じが変わったのは、なぜですか。」

時	「思考・判断・表現」 したことを音楽表現に 生かす学習過程	◎ねらい　○学習内容　・学習活動	意図的な発問	評価規準（評価方法）		
				音楽への関心 ・意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の技能
1	**①知覚・感受する** 「リボンのおどり」の範奏を聴き、楽器の音色や音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取る。	◎「リボンのおどり」の音色や音の重なりに、興味・関心をもって聴く。 ○曲の感じをつかむ。 ・「リボンのおどり」を聴き、音楽を形づくっている要素（音色、音の重なり）の特徴に気付く。 Ｔ：どのような楽器の音色が聴こえましたか。 ・音楽を形づくっている要素、曲の感じについて学習カードに記入し、発表する。 Ｔ：どんな感じがしましたか。音楽のどこからそう感じましたか。 ○各声部の特徴を知る。 ・主旋律・副次的な旋律、低音部を階名唱し、特徴をつかむ。 ・リズムを手拍子で打ち、特徴をつかむ。 ・各声部の組み合わせ方や、全体の構成の種類について、曲を聴いて考える。 Ｔ：どんな組み合わせ方がありましたか。	・要素を知覚・感受させる発問 ・要素の働きが生み出すよさや面白さに気付かせる発問 ・様々な組み合わせ方があることに気付かせる発問		互いの楽器の音、主な旋律や副次的な旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生みだすよさや面白さなどを感じ取る。【創―①器楽】	
2	**①知覚・感受する** 各声部の旋律の特徴を聴き取り、それら働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取る。 **②思いや意図をもつ** 各声部の役割や旋律の特徴を生かし、どの楽器で演奏するかについて、思いや意図をもっている。	◎各声部の特徴を考え、声部の役割に合った楽器を選択する。 ○各声部の役割を考える ・全ての声部の範奏をキーボードで聴き、声部の特徴や役割を考え、発表する。 Ｔ：声部の特徴や役割について分かったことを教えてください。 Ｔ：各声部の特徴にふさわしい楽器はどんな楽器ですか。 ・各声部にふさわしい楽器を個人で考える。	・各声部の特徴に気付かせる発問 ・思いや意図を引き出す発問	演奏する楽器の特徴を生かして、旋律楽器や打楽器を演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。【関―①器楽】（行動観察・演奏聴取・学習カード）		

	③思いや意図を音楽表現につなぐ ・自分の担当する声部を様々な楽器で演奏し、声部の役割に合っているかを試す。（試行錯誤） ・自分の担当する声部をどの楽器で演奏するか決める。（判断）	○各声部にふさわしい楽器を選んで演奏する。 ・グループごとに音で試しながら話し合う。 ・各声部にふさわしい楽器を選び、演奏する。			各声部の旋律の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えや願いや意図をもっている。【創―②器楽】（行動観察・演奏聴取・学習カード）	
3 ・ 4	**①知覚・感受する** ・「リボンのおどり」の楽器の組み合わせの違う範奏を聴き比べ、重なりによる響きの違いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取る。 **③思いや意図を音楽表現につなぐ** ・各グループで声部の組み合わせ方や声部の特徴にふさわしい楽器の音色について考え、演奏して試す。（試行錯誤） ・声部の役割に合った楽器の組み合わせ方を決める。（判断） ・担当する声部の役割や楽器の特徴を生かすため強弱などに気を付けて演奏する。（技能の習得）	◎各声部の役割や音色の特徴を生かした声部の組み合わせ方をグループで考え、演奏する。 ○「リボンのおどり」の楽器の組み合わせの違う範奏を聴き比べ、重なりによる響きの違いを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取る。 ○重なり合う響きのよさや面白さを楽しむ。 ・どんな組み合わせ方がよいか、音で試しながら考える。 ・楽器の組み合わせ方が決まったら、付箋に貼る。 Ｔ：どうしてこのような組み合わせにしたのですか。 例）２回目はどうして鉄琴とベースだけの組み合わせにしたのですか。	・思いや意図を引き出す発問	各声部の楽器の音や全体の響きを聴きながら、自分の音を友達の音と調和させて演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。【関―②器楽】（発言・演奏聴取、振り返りカード）		演奏する楽器の特徴を生かして、旋律楽器や打楽器を演奏している。【技―①器楽】（演奏聴取）

時	「思考・判断・表現」したことを音楽表現に生かす学習過程	◎ねらい　〇学習内容　・学習活動	意図的な発問	評価規準（評価方法）		
				音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
5	**④よりよい音楽表現を実感する** 楽器や声部の組み合わせの違いが生みだす響きのよさや面白さを感じ取りながら演奏し、自分の思いや意図が音楽で表現できたことを実感する。 **⑤振り返る** 各声部の役割や楽器の音色のよさや面白さを感じ、それを生かして演奏することの楽しさを感じる。	◎発表を通して、重なり合う響きのよさや面白さを楽しみ、よりよい音楽表現を実感する。 〇重なり合う響きのよさや面白さを楽しむ。 ・よりよい音楽表現を目指して練習する ・自分達の工夫を生かしながら、グループごとに発表する。 Ｔ：これまでの学習を通して工夫を重ねてきましたが、自分達の思っていた「リボンのおどり」になりましたか。 ・学習の振り返りをする。	・思いや意図が音楽で表現できたことを実感させるための発問			声部の役割を理解し、主な旋律や副次的な旋律、全体の響きを聴きながら、自分の音を友達の音と調和させて合奏をしている。【技―②器楽】（演奏聴取）

児童の変容と今後の課題

・「ここは、どうして鉄琴と低音だけの組み合わせにしたのですか。」等の児童の思考を促す発問をすることにより、楽曲の中で要素（鉄琴の音色）がどのようなよさを生み出しているのかを考えさせることができた。

・各声部の特徴や役割について、十分に知覚・感受させていなかったため、音楽的な根拠をもとに楽器の組み合わせ方を考えることができなかったグループがあった。児童一人一人が、音楽的な感受に基づいた思いや意図をもてるまで、知覚・感受を繰り返す必要がある。

・児童がどんな学びをしているのかを分かりやすくするために付箋を用いたが、音楽的な感受を基とした思いや意図をもたないまま、ただ自分の担当する楽器名の書かれた付箋を貼っているグループがあった。今後は、何のための学び合いなのか、目的や中身を考察し、全ての児童が学びの実感や意欲をもつことができるようにする。

(3)　学び合いを充実させるための工夫の実践例　11 月（第２学年）

学習指導案（掲載省略）を実践した結果、知覚・感受の深まりに課題があった。その原因を次のように分析した。①指導内容が不明確であった。②教材分析が不十分であった。③指導内容に合った学習計画に問題があった。④学び合いの目的が明確ではなかった。そこで、以下の修正指導案を作成した。（　　追加の修正部分）

①　題材名　　「いろいろな音にしたしもう」（４時間扱い）

②　題材の目標　　いろいろな音や音色の違いを感じ取ったり、好きな音を探したりして、音に対する興味・関心を育てる。

③　学習指導要領との関連（**この項目を追加し、指導内容を明確にした。**）

【Ａ表現(3)音楽づくり】　ア　声や身の回りの音の面白さに気付いて音遊びをすること。

〔共通事項〕ア（ｱ）　音色

			〔共通事項〕の具体的な内容	学習活動
ア	(ｱ)	音色	・打楽器から出すことのできる様々な音の表情の違い	・実際に聴いた虫の鳴き声の特徴に合う打楽器の音色を見付ける。
				・様々な打楽器の音色を聴き、音色の違いを学習カードに記入する。

④　題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
①虫の鳴き声の特徴に気付き、身の回りの音の面白さに興味・関心をもち、音遊びに進んで取り組もうとしている。 【関―①音楽づくり】	①いろいろな打楽器の音色の特徴を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取る。 ②虫の鳴き声の特徴に合うよう工夫して音遊びをし、どのように音を出すかについて思いをもっている。 【創―①②音楽づくり】	①虫の鳴き声の特徴に合わせて選んだ楽器の音色のよさや面白さに気付き、それを生かして音遊びをしている。 【技―①音楽づくり】

⑤　題材について

ア　題材設定の理由

本題材で２年生は様々な打楽器に触れ、音色を聴き比べ、虫の鳴き声の特徴に合った打楽器の音色を見付けたり、音の出し方を工夫したりする。様々な打楽器の音色の違いを感じ取ることで、打楽器に対する興味・関心を高めていく。また、虫の鳴き声の特徴に合わせた「虫の声」を打楽器で表現する活動を通して、音の面白さや豊かさを味わわせたいと考え、この題材を設定した。

イ　教材について

○「虫のこえ」（文部省唱歌）

歌詞の内容から、秋の夜、草むらで美しい声で虫が鳴いている様子を思い浮かべて歌ったり演奏したりすることができる教材である。「チンチロリン」「リンリン」などの擬声語が多く、虫の鳴き声の違いによる音色の違いを表現しやすい教材である。

○音探し　以下の楽器から選択する。

大太鼓、小太鼓、タンブリン、ウッドブロック、クラベス、カスタネット、ギロ、トライアングル、すず、スレイベル、カウベル、アゴゴベル、シンバル、カバサ、ビブラスラップ、マラカス

⑥　本題材における「『思考・判断・表現』したことを音楽表現に生かす学習過程」

時	◎ねらい	「思考・判断・表現」したことを 音楽表現に生かす学習過程	評価規準（評価方法）
1	◎それぞれの虫の鳴き声の違いを感じて「虫のこえ」を歌ったり、実際の虫の鳴き声を聴いたりして身の回りの音の面白さに興味・関心をもつ。	**①知覚・感受する** 実際の虫の鳴き声を聴き、音の特徴に気付く。	・虫の鳴き声の特徴に気付き、・身の回りの音の面白さに興味・関心をもち、音遊びに進んで取り組もうとしている。【関―①音楽づくり】（行動観察）
2	◎いろいろな打楽器に親しみ、虫の鳴き声の特徴に合う音色を見付ける。	**①知覚・感受する** 虫の鳴き声の特徴に合う音色を見付ける活動を通して、様々な楽器の音色の特徴を聴き取り、そのよさや面白さを感じ取る。	・いろいろな打楽器の音色の特徴を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取る。【創―①音楽づくり】（行動観察・学習カード）
3	◎様々な打楽器の中から虫の鳴き声の特徴に合う音色を選び、思いをもって音遊びをする。	**②思いや意図をもつ** 様々な打楽器の音色の特徴を生かして、どのように虫の鳴き声を表現するかについての思いをもつ。 **③思いや意図を音楽表現につなぐ** ・どの楽器を使い、どのように音を鳴らすと虫の鳴き声の特徴に合うか、音で試しながら考える。（試行錯誤） ・どの楽器を使い、どのように音を鳴らすか決める。（判断）	・虫の鳴き声の特徴に合うよう工夫して音遊びをし、どのように音を出すかについて思いをもっている。【創―②音楽づくり】（行動観察・学習カード）
4	◎自分と友達の演奏を聴き比べながらお互いのよさを見付け、自分の思いを明確にして音遊びする。	**③思いや意図を音楽表現につなぐ** ・自分と友達の演奏を聴き比べ、虫の鳴き声の特徴に合う楽器の音色や音の出し方について音で試しながら考える。（試行錯誤） ・虫の鳴き声の特徴に合う楽器の音色や音の出し方についての自分の思いをはっきりさせながら、どのように表現するか決める。（判断） ・音の出し方を工夫し虫の鳴き声の特徴に合った虫の声を打楽器で表現する。（技能の習得） **④よりよい音楽表現を実感する** 虫の鳴き声の特徴に合った音楽で表現できたことを実感する。 **⑤振り返る** これまでの学習を振り返り、様々な打楽器の音色の特徴を再確認したり、音遊びの楽しさを味わったりする。	・虫の鳴き声の特徴に合わせて選んだ楽器の音色のよさや面白さに気付き、それを生かして音遊びをしている。【技―①音楽づくり】（演奏聴取・行動観察）

⑦　「学び合いを充実させる」ための工夫　**（学び合いの目的を明確にする項目を立てた。）**

ア　学び合いの目的の明確化

友達がつくった虫の声のよさや面白さを見つけ、自分の思いを音楽で表現する方法を明確にする。

イ　考えたことの可視化

〇学習カードの工夫

一人一人がつくった虫の声について、なぜその楽器を選んだのかを学習カードに記入させ、自分の思いをはっきりさせる。また、自分の学習カードを見ながら発言したり、友達の学習カードの記述を見ながら演奏を聴いたりすることで、友達の思いを知る。

⑧　題材の指導計画と評価計画（全４時間扱い）（点線内のＴは実践を基にした改善の発問案）

時	「思考・判断・表現」したことを音楽表現に生かす学習過程	◎ねらい　○学習内容　・学習活動	「学び合いを充実させる」ための工夫	評価規準（評価方法）		
				音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
1	**①知覚・感受する** 実際の虫の鳴き声を聴き、音の特徴に気付く。	◎それぞれの虫の鳴き声の違いを感じて「虫のこえ」を歌ったり、実際の虫の鳴き声を聴いたりして声や身の回りの音の面白さに興味・関心をもつ。 ○情景を想像しながら歌う。 ・範唱を聴いて、曲の感じをつかむ。 ・歌詞を丁寧に音読して、情景を想像する。 ○擬声語に興味を持ち、虫ごとに声の音色を変えて歌う。 ・それぞれの虫がどのような声で鳴くのかを知る。 ・２つのグループに分かれ、前半部分を交互唱しながら擬声語の面白さを味わう。 ○実際の虫の鳴き声を聞き、音の特徴に気付く。 Ｔ：この虫の声を、楽器の音だけで表わすことができるでしょうか。 それぞれの虫の鳴き声に合う楽器はあるのでしょうか。 ・楽器で表したい虫の声を一つ選ぶ。		虫の鳴き声の特徴に気付き、身の回りの音の面白さに興味・関心をもち、音遊びに進んで取り組もうとしている。【関―①音楽づくり】（行動観察）		
2	**①知覚・感受する** 虫の鳴き声の特徴に合う音色を見付ける活動を通して、様々な楽器の音色の特徴を聴き取り、そのよさや面白さを感じ取る。	◎いろいろな打楽器に親しみ、虫の鳴き声の特徴に合う音色を見付ける。 ○いろいろな音色の違いに気付いて、実際の虫の鳴き声に合う音をさがす。 ・いろいろな打楽器の名前と奏法を知る。 ・グループに分かれ、１人ずつ順番に楽器を鳴らす。音色を注意深く聴き、その楽器どのような音色か学習カードにメモをとる。 ・どの楽器が自分の選んだ虫の鳴き声に合うか考え学習カードに記入する	・学習カードに自分の表現したい思いを書くことで、自分の思いをはっきりさせる。		いろいろな打楽器の音色の特徴を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さを感じ取る。【創―①音楽づくり】（行動観察・学習カード）	
3	**②思いや意図をもつ** 様々な打楽器の音色の特徴を生かして、どのように虫の鳴き声を表現するかについての思いをもつ。 **③思いや意図を音楽表現につなぐ** ・どの楽器を使い、どのように音を鳴らすと虫の鳴き声の特徴に合うか、音で試しながら考える。（試行錯誤） ・どの楽器を使い、どのように音を鳴らすか決める。（判断）	◎様々な打楽器の中から虫の鳴き声に合う音色を選び、思いをもって音遊びをする。 ○音の出し方を工夫し虫の鳴き声の特徴に合った虫の声を打楽器で表現する。 ・虫の鳴き声の特徴に合う楽器を選ぶ。 Ｔ：　なぜこの楽器を選んだのですか。 Ｔ：　どのように鳴らすと、より虫の鳴き声に近くなるでしょうか。 ・虫の声を完成させ、その楽器を選んだ理由や音の出し方の工夫等を、学習カードに記入する	・一人一人の思いを教師が把握する。		虫の鳴き声の特徴に合うよう工夫して音遊びをし、どのように音を出すかについて思いをもっている。【創―②音楽づくり】（行動観察・学習カード）	

時	「思考・判断・表現」 したことを音楽表現に 生かす学習過程	◎ねらい　○学習内容　・学習活動	「学び合いを 充実させる」 ための工夫	評価規準（評価方法）		
				音楽への関心・ 意欲・態度	音楽表現の 創意工夫	音楽表現の 技能
4	**③思いや意図を音楽表現につなぐ** ・自分と友達の演奏を聴き比べ、虫の鳴き声の特徴に合う楽器の音色や音の出し方について、音で試しながら考える。（試行錯誤） ・虫の鳴き声の特徴に合う楽器の音色や音の出し方についての自分の思いをはっきりさせながら、どのように表現するか決める。（判断） ・音の出し方を工夫し虫の鳴き声の特徴に合った虫の声を打楽器で表現する。（技能の習得） **④よりよい音楽表現を実感する** 虫の鳴き声に特徴に合った音楽で表現できたことを実感する。 **⑤振り返る** これまでの学習を振り返り、様々な打楽器の音色の特徴を再確認したり、音遊びの楽しさを感じたりする。	◎自分と友達の演奏を聴き比べながらお互いのよさを見付け、自分の思いを明確にして音遊びする。 ○自分が考えた虫の声にふさわしい音を伝えたり、友達の音を聴いたりしてそれぞれがつくった虫の声のよさに気付く。 ・個人でつくった虫の声を発表する。 ・実際の虫の鳴き声に似ているか考えながら友達の演奏を聴き、友達のつくった虫の声のよさや面白さを感じ取る。 ・自分と友達の演奏を聴き比べ、どの楽器の音色や音の出し方が合っているか音で試しながら考え、自分の思いをはっきりさせる。 Ｔ：　友達の演奏を聴いて、どのように感じましたか。自分の選んだ楽器や音の出し方は、虫の鳴き声と合っていましたか。 ・虫の鳴き声に合うように楽器や音の出し方を変える。 ○音遊びを楽しむ。 ・グループでそれぞれがつくった虫の声をつなげ、音遊びをする。 ・演奏の順番を決める。 ○自分たちでつくった虫の声を聴き合う。 ・全員で「虫のこえ」に合わせて歌いながら演奏する。 Ｔ：　それぞれの虫の鳴き声に合う楽器は見付けられましたか。 ・これまでの学習を通して感じたことを学習カードに記入し、発表する。	・自分の学習カードを見ながら発言したり、友達の学習カードの記述を見ながら演奏を聴いたりすることで、友達の思いを知る。			虫の鳴き声の特徴に合わせて選んだ楽器の音色のよさや面白さに気付き、それを生かして音遊びをしている。【技―①音楽づくり】（演奏聴取・行動観察）

児童の変容と今後の課題

・児童に知覚・感受させる内容を教師が明確にし、繰り返し知覚・感受させたことで、児童は音楽的な感受を基に虫の声をつくることができた。また、友達のつくった虫の声について、「実際の虫の鳴き声に」という視点をもって聴き、よさや面白さを感じ取ることができた。

・自分のつくった虫の声を発表する場面では、友達の意見をそのまま自分の考えとして取り入れてしまい、自分の考えを深めることができない児童がいた。思いや意図を伝え合った後で再び個に戻り、思いや意図にふさわしい音楽表現について自分で考え、思いや意図をはっきりさせることが課題である。

＜第４時　それぞれがつくった虫の声をグループでつなげて音遊びしている場面＞

＜児童の発言＞

Ａさんの出した音はまつ虫の声にそっくりだなあ。どうやって鳴らしたんだろう。

＜児童の発言＞

この音、まつ虫の声に似てるかな。

＜第４時　振り返りの学習カード＞

いろんなかっきの音をきいてまつ虫にあう音をさがしました。わたしはトライアングルがいちばんあうと思いました。スレイベルをえらんでいた人もいたけどやっぱりトライアングルのほうがあうと思いました。みんなでえんそうしてたのしかったです。

＜教師の見取り＞
学び合いを通して「やっぱりトライアングルの方が合う。」と、自分の思いや意図をはっきりさせながら、まつ虫の声に合う音色の楽器を選択している。

ぼくはギロもカバサもくつわ虫の声にていると思ったけれどギロをえらびました。ギロのほうがガチャガチャという音がしたからです。おなじはんにカバサをえらんだ人がいたのでつなげてえんそうしたらもっとガチャガチャという音になってくつわ虫のこえにぴったりになりました。

＜教師の見取り＞
ギロとカバサの音色がくつわ虫の鳴き声に似ていることに気付いている。この児童はギロを選択したが、カバサを選んだ児童と音遊びする中で、つなげて演奏した時の音色のよさや面白さを感じ取っている。

Ⅵ　研究の成果と課題

１　研究の成果

「『思考・判断・表現』したことを音楽表現に生かす学習過程」に沿って指導のねらいや手だてを明確にすることで、音楽表現がよりよくなっていくことを実感しながら音楽表現する児童の姿を捉えることができた。

(1)　「『思考・判断・表現』したことを音楽表現に生かす学習過程」における指導の有効性

学習過程を分析したり、児童の思考の流れに沿った活動を考えたりしたことで、児童がどのように「思考・判断・表現」したことを音楽表現に生かしていくかを捉えることができた。

実際の学習場面では、児童の音楽的な感受、「思考」「判断」は常に一定順序で進むのではなかった。自分の思いや意図をもち、それを基にしながら音楽表現を工夫したり、音楽表現を工夫する中で、次第に思いや意図が明確になったりすることもあった。このように、様々な方法で音や音楽を試しながら工夫し、音楽表現がよくなっていくことを実感し、音楽的な感受をより深め、音楽の楽しさやよさを感じるようになった。

また、全ての学習過程において、音楽的な感受の力を支えに展開し、どのように音楽で表すかについて言葉等で表現する力を育むことによって、児童自身が音楽表現に必要な技能に気付き、身に付けることの大切さを実感するようになった。

(2)　「思いや意図もたせる」ための手だての効果

題材を貫いて音楽的な感受を支えとした児童一人一人の思いや意図を大事に指導する。

〔共通事項〕アの指導内容を明確にし、身に付けさせる力を教師が把握することで、児童が音楽を形づくっている要素の働きに気付き、音楽的な特徴に即した思いや意図をもつことができた。

全ての児童が学習する内容を捉え、思いや意図をもつようにするためには、「この時間にもたせたい思いや意図は何か」を明確にし、思いや意図が考えにくい児童にどのように指導・助言するかについての発問をあらかじめ考えておくことが大切である。

また、「なぜ、そう感じるのか」「どうしてそうしたいのか」と児童に問い返し、発問することにより、音楽的な感受や思考の深まりを捉えることができた。

(3)　「学び合いを充実させる」ための工夫の効果

見えにくい思いや意図などを可視化し、学び合いの目的を明確にすることで、児童は自分の考えを見つめ直したり、友達の意見のよさに気付いたりしながら、思いや意図を明確にしていった。実際の授業において、学び合いを通して学習カードに新たな自分の思いや意図を書き加え、明確にしながらよりよい音楽表現を求めていく児童の姿を見ることができた。また、教師は児童が目標の実現に向けどのように変容しているか、つまずいている児童はいないか等の状況を把握するとともに、指導が適切だったかを見直し、指導改善を図ることにもつながった。

２　今後の課題

・児童にとって、音楽的な感受の力に支えられた音楽表現を目指して、指導と評価を一体化させた指導法を目指す。
・学び合いが、単なる発表や意見交換等にとどまることのないよう、児童が自分で自分の考えを問い返し、確認したり再構築したりしながら、真に学び合う授業の実現を目指す。
・題材の目標及び指導内容を児童の実態と教材分析から具体的に明らかにし、児童の思考の流れを意識しながら、どの題材でも実践できる力を付けていく。

平成２５年度　教育研究員名簿

小学校・音楽

地　区	学　校　名	職　名	氏　名
中央区	京橋築地小学校	主任教諭	◎堀之内 真理子
墨田区	第三寺島小学校	教　　諭	一木　喜美
豊島区	豊 成 小 学 校	主任教諭	○松村　信江
小平市	小平第六小学校	主任教諭	佐野　綾子
清瀬市	清 明 小 学 校	主幹教諭	藤井　嘉也

◎世話人　○副世話人

〔担当〕東京都教職員研修センター研修部教育経営課
指 導　主 事　金子　陽子

平成２５年度
教育研究員研究報告書

小学校・音楽

東京都教育委員会印刷物登録
（平成２５年度第１９３号
平成２６年　３月）

編集・発行　東京都教育庁指導部指導企画課
所 在 地　東京都新宿区西新宿二丁目８番１号
電話番号　（０３）５３２０－６８３６
印 刷 会 社　昭和商事株式会社